

こんにちは、ルミナです。

この5年～10年
人生が思わぬ方向へシフトした人
自分の霊性に目覚めた人

それにあわせて
今までいた「枠」からドロップアウトして
新しい世界に入った人も多いとおもいます。

それは、スピリチュアルの世界ばかりではなく
新しい社会への始まりだともいえます。

サラリーマンをやめて
自分で仕事をし始めた人も多いとおもいます。

分野は様々ですが
いずれも「こころ」や「人とのつながり」
「スピリチュアリティ」を大切にしたものが
多いのではないのでしょうか。

わたしのまわりでは、ヒーラーさんやセラピスト、アーティストといった
方が活躍しています。

ところが、みなさん、表向きは活躍しているものの
「経済」と上手に結びついていない。

このことについて
指導、研究をこの5年ほど行ってきました。

スピリチュアルを学んで来た人のネックは
お金やパワー（権威、支配）への嫌悪や、
スピリチュアルへの崇拝、依存が自立を阻むことにあります。

お金やパワーへの嫌悪は「認識」なので
これは、すぐに変えることができます。

「依存」を「自立」にするのは「行動」なので
行動できない人はずっと自立できません。

どうしたら「自立」できるか。

このことを社会の視点から見てみましょう。
日本という社会は「依存社会」が支えていることがわかります。

そのことは
原発事故、繰り返し繰り返しやむことのない様々な社会問題に
現れています。

日本は「パワー」が社会の階層を作っています。
でも、これは非難されるものでも否定されるものでもなく
わたしたちは、その恩恵を受けて
現在の便利な生活を送ることができています。

そこに様々な問題も生まれているということですね。

このことをもう少し分解してみたいと思います。

パワーが何であるかというところ
パワーとは、本人の持つ生命力、行動力や積み重ねて来た力はもちろんですが
持って生まれた家柄、学歴や経歴といったもののパワーになります。

人と人の結びつき、創造性には
パワーの差は関係ありません。

ところが、「実行」する段階において
パワーの差が人を分け、階層を作っていきます。
パワーのある人は実行力、行動力がある人とも言えます。
もちろん、これはできることを出来る人が行う図式でもあります。

このことは、社会に階層を作りました。
これも「自然」な成り立ちです。

パワーは同等のパワーと結びついていきやすいですから
同じパワーを持つ人が集まるようになる。
お金もパワーのあるところに集まる。

他の階層に対しては雇用や外注、下請けが生まれる。
そこでの「こころ」によって
言われたことをただやる主従関係が育ち
支配と依存が形作られていく。

依存層は、犠牲を鵜呑みにしてそこから出られない。
そんなところからドロップアウトして
自分の生きる道を模索してスピリチュアルを学んできた人も
多いのではないのでしょうか。

ここまでの時代は「パワー」が必要でした。
時代を切りひらいていく力が必要だったのです。

そのために多くのことを犠牲にしてきたとも言えますし
わたしたちは多くのことを「ゆるし」してきた
違う言い方をすれば目をつむってきたともいえます。

日本は借金大国でもあります
これについて麻生さんがわかりやすく説明してくれています。
参考記事

<http://logmi.jp/14626>

麻生さんは日本の借金を

『家庭で考えればわかりやすいよ。
父ちゃんが「会社で困ってるんだ。母ちゃん金貸してくれ」って母ちゃんに言って、
母ちゃん金利とるか？ なかなか父ちゃんに貸した金って取り立てもしにくい。そんな具合。』
と説明してくれています。わかりやすい！

ここでも、さきほど述べたことが表現されています。
母ちゃんが目をつむってお金を用立てしている。
そのお金を準備するために母ちゃんがあっちこっちする。
これは、美しい家族愛になるかというと

そうではないことはこれを読む人は知っているとおもいます。

でも、家族の関係というのは
簡単にえられるものではないこと、単純でないことも
多くの人が知っている。

これは、家族病理であり社会病理。

社会や政治の単位でわからなくても
「家庭」で考えるとわかる。

この現象は日本の家庭、世界の家庭であふれている。
セラピストやカウンセラーしている人なら
ここにどういうところがあるかはすぐにわかると思う。

ここには依存と支配があるということ。

2012年を越えて
多くの人が「自分」を変えて来たとおもいます。

その出会いが健康や身体のことであつたり
家族やパートナー、人間関係であつたり、
こころ、スピリチュアル(霊性)のことであつたり
仕事のことであつたりときっかけは様々だけど
それぞれにスピリチュアリティについて
考え、自分の生きかたを変えてきたと思う。

そのことは
とても大きな範囲まで及び
スピリチュアルブームも作った。

では、スピリチュアルを学んだ人は依存と支配がなくなって
自立したかということ
自立した人ももちろんいるけど
支配は崇拝に変わって依存はそのまま残っている状態がある。
スピリチュアルの世界に崇拝と依存のシステムが
出来上がっただけ。

それは、支配の世界よりは平和かもしれない。
でも、経済や物質と結びついてないから
思いやりはあるけどお金のない人は多く、循環していない。

スピリチュアルだけに限定はしない
ようはドロップアウトした人たちの世界は
せつかくドロップアウトしたのに
古い世界と同じ世界を構築しはじめてる。

それは、
まず依存が抜けていないことが大きい
そして、多くの方は自分の幸せだけを求めて終わっている。
もちろん、まずは自分が幸せになることは大切。
自分を生きること。
それが出来ない人は焦らずそこを念入りにやってほしい。

でも、そこまで完成したら
「志」を持つことが必要。

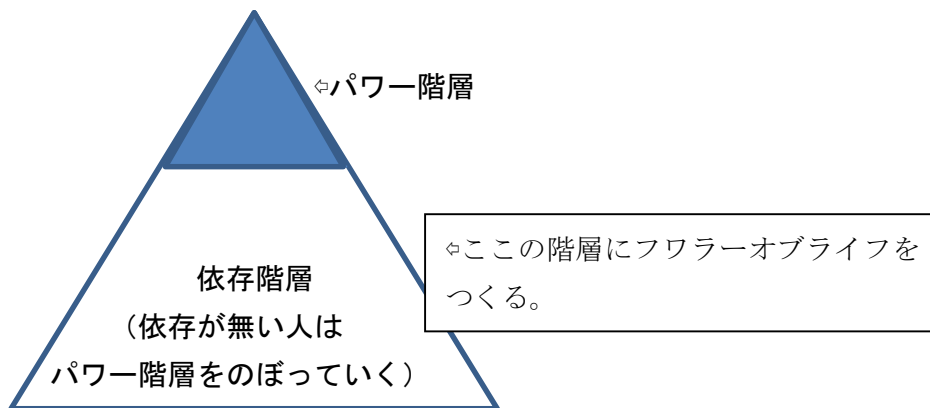
その自分で社会にどう働きかけていくのか。
社会とは「共同体意識」

そこまで見ないと「循環」というのは起きて来ない。
自分や家族がなんとか幸せならという考えでは
個人の循環も枯渇するようにこの世界はできている。

なぜなら、人間は社会性によって種を受け継いでいく生命体だから。
人間の持つ社会性には地球の希望が託されている。

さて、前置きが長くなりましたが
ここからが本編。

今の社会をパワーと依存で分けると



これは、サラリーマンが依存していることをあらわすものではないです。
依存階層っていうのは、社会に保護されている階層でもあるんです。
保護＝依存というわけではない。
保護された中で養い育んでいけることがある。
この社会の多大な恩恵を受けて生きていることを忘れてはいけない。

スピリチュアルのあるネットワークに焦点をあわせて話しをします。
現在のスピリチュアルのネットワークは
経済と結びついているネットワークと経済と結びついていないネットワークとあります。

経済と結びついているネットワークは
パワー階層で構成されています。(今までと同じ)
今、スピリチュアル業界をひっぱっているのはここだとも思います。
支配と崇拝があります。

経済と結びついていないネットワークは
崇拝で結びついているネットワークと
新しい人間関係で結びついているネットワークとあります。

スピリチュアルの業界は
新しい、まだ「若い」分野です。

特に新しい人間関係で結ばれるネットワークは
どこへ向かうかその方向性を定めていません。

方向性を定めていないのは

「いのちのマネジメント」が正しく起動していないからです。

マネジメントとは何でしょうか？

これは、ビジネスでよく使われる言葉ですが

わたしは、いのちを循環させるための真理だと感じています。

多くの人に認識されていません。

わたしは、このことを「意識次元の成長」として

セミナーやコンサルで伝えてきました。

マネジメントで有名なP・F・ドラッカーはマネジメントを次のように定義しています。

第1に、マネジメントとは、人の強みを発揮させ、弱みを無意味にすることである。つまりそれは、人にかかわることである。

第2に、マネジメントとは、それぞれの国や土地の伝統、歴史、文化を仕事に組み込むことである。つまりそれは、人の関係にかかわることである。

第3に、マネジメントとは、組織の目的、価値観、目標を明確にしてから、周知徹底し、常時確認することである。つまりそれは、組織の目的にかかわることである。

第4に、マネジメントとは、組織の人間を成長させることである。つまりそれは、組織の人間の訓練と啓発にかかわることである。

第5に、マネジメントとは、意思の疎通と個人の責任を確立することである。

第6に、マネジメントとは、マーケティング、イノベーション、生産性、人材育成、人、もの、カネ、社会的責任など、成果の尺度を明らかにして、測定し、向上させることである。

第7に、マネジメントとは、組織の外に成果をもたらすことである。優れた財・サービスの提供によって、世の中に貢献することである。

マネジメントとは、仕事である。その成否は、結果で判定される。すなわち、それは技能である。しかし同時に、マネジメントとは、人に関わるものであり、価値観と成長に関わるものである。したがってそれは、まさに伝統的な意味における教養である

(『チェンジ・リーダーの条件』より)

ここでいう組織をネットワークとし、
わたしたちは新しい社会のネットワークを作るときに来ているとおもいます。

わたしは、この社会の新しいシステムを作ることができるのは
スピリチュアリティに目覚めているネットワークだとおもいます。

ここに循環するための「マネジメント」を認識させることで
無理なく正しい循環が自然と起きてきます。

その小さなモデルをこの3月沖縄で起動させました。

そして、そのマネジメントは
それぞれの感性を否定せず、人と人を結びあいながら
次元を超えて協力しあい、社会に循環、貢献するものであり、
自立+直感、協力+責任、評価+表現という
人間の成長プロセスを自然に育てるものであるということ。

これができるのは
今わたしたちがいる場所からだとおもいます。

これは、新しい希望であり、可能性であり、挑戦です。

こうした新しい社会のありかたは
地方創生と言った事業で
すでに研究、試行されています。

これらはソーシャルキャピタルとして注目もされ
国土交通省でもその研究を行っています。
<http://www.mlit.go.jp/pri/houkoku/gaiyou/kkk61.html>
詳細をみていただくと内容を確認できます。

2005年の研究なので少し古いものですがソーシャルキャピタルを知るための
いい資料だとおもいます。
ソーシャルキャピタルが最も育っているのは「島根」であることは興味深いです。

わたしも今の仕事になるまでは
地方創生のためのコミュニティなどで活動していました。
また、NPOや社団法人を作ったりもしました。

同じ目標を持つもの、そこそこ社会でパワーがあるものが集まっても
「しがらみ」と「今までの概念」の拘束を打ち破ることができません。
また、同じ価値観を持つ者同士だけの世界になり、発展性がありません。

そこには、マネジメントがなかったのです。

私は、そこからもドロップアウトして
今の仕事の中で
まずは小さなモデルをひとりでできるところから始めました。

まずは、お金のやりとりを労力の交換で行うことです。

これもすでにいろいろな方法で試行されていますね。

わたしもいろいろなパターンを試しましたが
これを1対1で行うとその場の創造性はある
うまく行くこともありましたが、
継続していくと依存を生みやすく、その場限りで終わり
「継続性」が難しいということがわかりました。

また、お金をともなうと「自立」を育てないということが問題として浮上しました。

1対1で自立を育てて継続的なのは、無条件の愛の師弟関係ですが、これもやはり経済と結びつきにくいのです。

そこで1対1の関係に他者を絡めて力のベクトルを循環する3方向につくり、
そして、共有する「認識」を創ること。

つまり3つのベクトル（三位一体）+1のスペースで
関わる人が自立もできて、経済と結びつき、全体の生産性をあげ、
新しいネットワークを生みだすことができる自立型モデルができあがりしました。

この+1のスペースとは
伝統や文化という認識でもあります。

伝統や文化は先人たちから受け継いだものです。

伝統や文化を守ることは
先人たちの死を敬うこと、
祖先を大切にすることと言えます。

死（いのち）を想う時、伝統や文化は守られます。

死は、わたしたちに正しい方向性と行動力を与えます。
正しい方向とは次世代のこどもたちへ受け継ごうとする方向です。

100年先のこどもたちへ残せるものを残すこと。
それこそが、いのちが本来持っている「マネジメント(循環)力」です。

この形はマンダラやフラワーオブライフ
セフィロトの樹などに表現されています。

古来より戦争で勝った国は、その国の歴史を書き換えます。
そうするとその国は「いのちの力」を失うからです。

古の人々はそのことをよく知っていた。

伝統、文化を失うということは
「頭」を失うことと同じ。

自分たちが誰であるか忘れ、方向性を失い、従うしかなくなります。
歴史を書き換えることは、どんな拷問、殺戮よりいのちの力を奪います。

縄文時代は集落の中に墓があった（死を敬う文化）と
井戸尻考古博物館で聞きました。

縄文の人は、そのことがいのちを循環させることを
よく知っていたのでしょう。

新しいモデルも三位一体の真ん中に「伝統・文化」を置くことで
マネジメントを起動させます。

そして、さらにここに「いのちのデザイン」をいれます。

デザインを「現代」にあわせるのです。

昔に戻れというのではありません。

日本の文化、伝統を新しい形（デザイン）で「再生」すること。
それが必要なのだとおもいます。

すでにここ5年ほど、日本は文化を掘り起こしています。

神社巡り、月や暦とともにある暮らし

自然とともにある暮らし

これらは、いのちの力を取り戻そうとするわたしたちの自然です。

そこには新しいデザインも生まれています。

ところが、それさえも

ブーム、流行りとなり、まだ根を降ろしていません。

これから幻想は崩壊します。

根の降りているものだけが残ります。

根を降ろしていないのは

マネジメントへの正しい「認識」がないからです。

このことをひとつひとつつなぎ合わせる作業を
この数年してきました。

これは、

「教養としてのスピリチュアル」「教養としてのマネジメント」です。

このことを伝えていきながら

つくりあげていく時がきました。

その最初の一步は「沖縄」から起動。

沖縄はすでにソーシャルキャピタル（人のつながりや信頼）と文化があります。

ここにマネジメントの認識と3つのベクトルを示すことで

すでにある文化を守り、

新しい文化を生みだしながら経済と自然に結びついて自立していく仕組み。

ゆっくりまずは今年一年かけてこのモデルが育っていくのを見守って新しいデザインを生みだしていきます。

さらに多くの人に共有するために
4月8日（金）は大阪でセミナーを行います。

この新しいシステム、社会のデザインをともに実践研究している
(株)マリアフローラ代表山際春海さん、
(株)グランドハピネス代表米津史穂香さんをゲストに対談、講演を行い
「教養としてのスピリチュアリティ」
「三位一体～建築の現場から・参加してもらおう家づくり～」
「幻想が崩壊すること」ということ」などに触れ

システムを起動させるための
ヒューマンキャピタルとソーシャルキャピタルへの理解
教養としてのマネジメント、いのちのデザイン
いのちのシステム、意識次元と人間の成長、知と美と志、
新しい経済の具体的モデルとスピリチュアリティの講義、ワーク
新しい社会のデザインは縄文、六芒星とフラワーオブライフに学ぶなど
1日セミナーとして開催します。

また、5月から年内はこのモデルをつくっていくための
トレーニング、実践していくセミナー、フィールドワークを
毎月1回開催し、みなさんに小さなモデルを実践いただきながら
さらにブラッシュアップしてみんなで創り上げていきたいと思えます。
11月には沖縄でのフィールドワークを計画しています。
沖縄での新しいモデルに実際に触れながらの学びです。

5月以降のことは8日に具体的に話します。

多くの人の意識は高くなってきています。

それでも、慎重に進めたいとおもいます。
まだ、これは芽が出たばかり。

今回、やや高めに料金設定しているのは
認識する段階を考慮しました。

いのちのマネジメントはいのちの真理でもあり
今までの時代であれば「秘伝」として一部の人間だけに伝えられて来たこと。

いのちを吹き込むということは
終わり（死）を知ることであり、
それは、危険をとまなうからです。

悪用までいかなくても、認識を間違えると
正しく機能しません。そのことを考慮した料金設定となっています。

今回集まってくださった方と
新しいモデルを育てていきたいとおもいます。

新しいモデルを自分も作ってみたいという方、
まだ、すぐにモデルは作れないけど
今後のために知っておきたいという方も歓迎します。

会場に足を運べない人、
これから自立を目指していく人向けに
対談、講義の一部は動画にて公開販売を予定しています。

「チェンジ・ワールドin大阪」
日時 4月8日(金) 13時～18時
会場 レインボーエンジェルス大阪
※天満橋駅より徒歩1分
参加費 28000円 (新しいモデルを構築していくための無料スカイプ相談付)

申込みフォーム（決済はペイパルか振込みが可能です）
<http://neoluminous.xsrv.jp/yorozuya/order/528563/>

問い合わせ
info@neoluminous.com